

第1号議案

令和元年度

事業所別事業報告

障害者支援施設 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里

共同生活事業 グループホーム・ケアホーム

特別養護老人ホーム 穴山の杜

穴山の杜 短期入所生活介護

相談支援事業所 さくら

令和 元年度

障害者支援施設 穴山の里 事業報告

1. はじめに

「真の福祉を追求していこう」という、法人の運営方針のもと、“利用者の自立と社会活動への参加を促進する”及び“利用者の能力や特性、環境に即した適切な支援を行う”ことを施設の運営方針とし、下記の5項目の運営目標を掲げ、諸活動を展開してまいりました。

本年度は、年度末に新型コロナウイルスの感染予防措置のため、外部との交流、来客者の受け入れ、外出、研修等を全て中止しています。また、利用者・職員の衛生管理、施設内の消毒、清掃の徹底等も実施しており、更に、利用者の三密を防ぐため、グラウンドや鳳凰会館での日中支援等を実施しています。また、職員への感染症に対する教育の徹底も図っております。

2. 運営目標に対する報告

①施設経営基盤の安定化

穴山の里は、昭和61年5月に開設し、35年目を迎えようとしています。東京都の都外施設としての認可を受け、東京都から様々な補助を受けることにより、経営は安定しております。

利用者の入退所ですが、地域移行等に伴う退所があり、その充足ですが、保護者の意向等もあり、短期入所から本入所への移行がなかなか進まず、毎月50名の定員確保には少々届きませんでした。今年3月には満床です。

短期入所に関しましては積極的に受け入れ、年間15名、延べ受入人数は511名(平均毎日1.4名)であり、又、通所生活介護及び日中一時支援の方もほとんど毎日受け入れており、地域の方々の福祉向上に努めています。

なお、短期入所と通所サービスにつきましては、施設内の感染防止のため受け入れをお断りしておりますので、2月からの受入人数は減少しています。

②利用者本位の支援

利用者及びご家族に満足していただける、きめ細やかな利用者支援を目指し、生活介護では利用者1.7名に対し、職員1名の人員配置体制を基本とし、夜勤も職員3名体制で実施しています。

支援関係では、利用者個々の、個別支援計画を作成し、利用者ひとり一人の特性に合わせて支援を展開しており、特に、強度行動障害をもつ37名の利用者に対しては、行動特性に対応した支援マニュアルを作成し、支援者養成研修を受講した職員による、個別ケアも実施しています。

また、余暇活動や創作活動を充実させるべく5班に分かれ、クラブ活動を行い、外部講師（ボランティア）の協力により、活発な活動が出来ました。

一方、利用者の安全確保ですが、「サービス改善・事故防止委員会」を毎月開催し、原因の究明と再発防止策を講じるなど、事故の減少に向けた取り組みを実施しています。本年度の事故報告件数は64件であり、昨年度の44件に比べ増加していますが、これは本年度に受け入れをした短期入所利用者の多くが強度行動障害があり、無断外出、器物破損、他害、自傷（ケガ）が多いために増加しています。事故報告中で最も多かった内容は、転倒でありこれは利用者の高齢化による運動器機能の低下等が原因と思われるので、対応策として、リハビリ活動を積極的に実施しております。

なお、事故予防のため、ヒヤリ・ハット報告が重要な情報となりますが、今年度は24件の報告がありました。これは事故には至らないものの、事故に直結してもおかしくないリスクへの気づきとなるため、職員間で共有する中で、事故の未然防止のためにつなげ、事故のない安全で快適な施設づくりに努めてまいります。

③職員の資質向上

より充実した利用者支援を実施するため、職員が年度初めに“目標管理シート”により各自の業務目標を設定し、更に支援員は、担当利用者の個別支援計画を達成するための目標管理を行い、自己研鑽に励んでいます。

また、高齢化・重度化が進む中、“支援の質の向上”を目的とした、様々な研修会・講習会へ延べ40人の職員を派遣し、又、外部研修だけではなく、利用者支援に対し適切に対応できるよう、支援技術の向上等を目的とした、内部研修・内部講習会も適宜実施し、更なるスキルアップを目指します。

尚、職員の資格取得にも積極的に支援し、取得しやすい職場環境を目指し本年度は、2名が介護福祉士資格を取得しています。

④地域との融合

地域に密着した施設づくりを念頭に、前年度に引き続き、鷺宮神社、穴山町ふれあいホール、さくら公園等の清掃、地域の側溝の掃除などの奉仕活動を行うとともに、穴山町のさくら祭り、地区の納涼祭、神社の祭典等、地域のイベントにも積極的に参加しています。特に、東日本大震災による、東北気仙沼の方々との交流会“さんま祭り”では、職員が秋刀魚を焼き、地域の方々に提供するなど、まつりのスタッフとして活躍しました。

また、地域の小学校、保育園、幼稚園との交流会も実施し、更に、本年度も教育実習生として、県内の保育福祉関係の短期大学等から、7名の生徒を受け入れるとともに、山梨県歯科衛生専門学校から2回の刷掃指導の受け入れも行っています。

なお、本年度、地域の交流センターとして、「鳳凰会館」を建設し、地域の皆さんに利用していただいております。

⑤大規模災害と防災

月毎に訓練項目や重点指導事項を定め、避難訓練を実施すると共に、7月に“職員の非常召集訓練及び夜間避難訓練”を実施し、9月には“地域の防災訓練”に、利用者と職員が参加しています。

更に、施設内の自主防災組織の中心となり、防災啓発活動や防災対策を推進する「防災士」資格を取得している職員をはじめ、地域の消防団に加入している職員もおり、心強いかぎりです。

また、大規模災害発生時には、当施設が臨時避難所として、地域の被災者の方々を受け入れることを韮崎市から委託されており、このたび建設した当法人の“鳳凰会館”が、その役割りを担っており、有事の際にも安心できます。

3. おわりに

昨今、障害福祉施設では、利用者の高齢化・重度化が進んでおり、当施設におきましても、例外ではなく、その対応に苦慮しております。

そのため、今後も職員教育の更なる充実を図ると共に、強度行動障害者支援にあたっては、専門的な施設内外の研修等を充実し、職員ひとり一人が、福祉のプロとして、的確な対応が出来るよう、努めてまいります。

また、職員が個々にキャリアビジョンを描けるような、働きやすい職場環境づくりを目指してまいります。

令和元年度

障害者支援施設 穴山の里 主な出来事

行事・出来事	
4月1日	辞令交付式／新人職員研修
14日	穴山町さくら祭り参加
20日	甲府市朝日町ハナミズキ祭り参加・なかよし会4月誕生会・ひな祭り
5月5日	なかよし会 端午の節句・5月誕生会
18日	なかよし会 母の日プレゼント作り
6月1日	なかよし会 父の日プレゼント作り
7日	発支協スポーツ大会
15日	なかよし会 6月誕生会
18日	韭崎愛生幼稚園児との交流会
20日	山梨県歯科衛生専門学校 刷掃指導(第1班)
27日	山梨県歯科衛生専門学校 刷掃指導(第2班)
7月2日	夜間避難訓練 実施
5日	穴山町七夕祭り見学
6日	なかよし会 七夕・7月誕生会
10日	東京都指導監査
20日	なかよし会 流しそうめん大会
28日	にらちびフェスティバル
8月4日	信和会 地域ふれあい祭り 参加
7日	縄文プロジェクト
10日	夏季家庭訓練(～15日) / 12日 残留者スパティオ外出
11日	円野町かかし祭り 出展
14日	穴山町ふるさと納涼祭 参加
24日	なかよし会 8月誕生会
9月1日	地域防災・避難訓練
2日	山梨県監査(書面監査)
4日	第三者評価機関利用者調査
5日	山梨県障害者文化展 テープカット及び見学(第1班)
7日	なかよし会 9月誕生会・敬老プレゼント作り
8日	山梨県障害者文化展見学(第2班)・鷲宮社清掃

13日	なかよし会 十五夜
16日	縄文プロジェクト 菜の花種まき参加
19日	なごみの里慰問
10月1日	鳳凰会館竣工式・赤い羽根共同募金
5日	北杜高校フェスタ見学
6日	モニタリング一斉説明会
9日	ナイスハートふれあい広場参加
11日	穴山町さんま祭り参加・なかよし会 十三夜
12日	穴山町さんま祭り参加
13日	武田の里まつり参加
16日	里：秋の健康診断
18日	施設外活動（汚泥抜き）
26日	なかよし会10月誕生会
28日	葦小大豆収穫体験
11月1日	福祉と文化祭り・穴山町文化祭参加
9日	なかよし会 ハロウィン・11月誕生会・葦崎市文化祭見学
9日	葦小大豆収穫体験、長野県坂城町民生委員来園
23日	穴山の里 文化祭
26日	第三者評価機関施設調査
12月7日	12月誕生会・穴山町餅つき交流会
8日	イルミネーション点灯式と音楽の夕べ見学
23日	穴山の里クリスマス会
28日	冬季家庭訓練（～1/4）
1月1日	鷲宮神社 初詣
11日	なかよし会 1月誕生会・新年会・どんど焼き
23日	味噌作り
2月3日	なかよし会 節分豆まき
8日	なかよし会 バレンタインお菓子づくり、2月誕生会
19日	葦崎市父母の会見学
21日	葦崎市社会福祉大会参加
3月7日	なかよし会 ホワイトデー・3月誕生会
28日	なかよし会 年度末総会

令和元年度

わ〜く穴山の里 事業報告

わ〜く穴山の里は、平成16年に開所し16年目を迎えました。障害のある人の地域で生活し続けるために必要な社会資源として、時代の流れに沿ったサービス提供を模索し、「生きる力を身につける」支援を展開して参りました。

1 就労支援収入・給付収入の安定化

令和元年度は就労支援収入を1,000万円に目標設定し、1,121万円の作業収益となりました。賞与も2回お渡しできており、平均工賃月額を¥29,312で申請いたしました。

在籍者数については、2名が退所され、新たに1名の利用者を迎えました。就労B20名の定員に対し21名、生活介護定員12名に対し13名、計34名の方が利用されております。

2 利用者本位の事業展開

個々の利用目的を見極め、事業所の活動において何を支援し、何を繋ぐのかを意識した取り組みを行いました。就労継続支援B型では平均工賃月額区分を維持できる受注と高品質な製品の生産、生活介護では年代に沿った支援展開に繋げることが出来ました。

3 職員の質の向上

職員面談から部署ごとのミーティング希望が出たため、リーダーを中心に支援や活動について、全職員が積極的に意見を出せる場を設けました。定期的なミーティングにより、情報の共有・支援内容の変更・検証などスムーズに進み始めております。

4 相談支援事業者との連携

利用定員の確保や課題の共有や取り組みにおいて、都度相談する機会をいただきながら進めることが出来ました。

5 「知る機会」への啓発活動

市内中学・高校の職場体験、自立支援協議会の取り組みより商工会を通じた職場見学、父母の会などの見学など、様々な分野の方に障害サービスや日中活動について話をさせていただきました。また、教育実習を積極的に受け入れ、興味を持てるよう進めました。

令和元年度

多機能型事業所 わ〜く穴山の里 主な出来事

月 日	出来事
4月 4日	入社式 (職員含め 51名参加)
5日	ともだちの会 新年度総会 (職員含め 40名参加)
12日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 12名参加)
24日	体力測定会 (外部講師を招いて 職員含め 43名参加)
5月 8日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 12名参加)
10日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め 12名参加)
17日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 26名参加)
6月 3日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 11名参加)
7日	ひとり立ち料理教室 (職員含め 3名参加)
17日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 21名参加)
21日	ともだちの会 郵便局周辺清掃 (職員含め 15名参加)
7月 5日	ともだちの会 七夕 (職員含め 33名参加)
10日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 11名参加)
13日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 25名参加)
8月 9日	外食昼食会 (すたみな太郎 職員含め 48名参加)
19日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 11名)
27日	生活介護 外出 (職員含め 18名参加)
9月 4日	かかしまつり見学 散策 (職員含め 9名参加)
9日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め 15名参加)
11日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 11名参加)
13日	ともだちの会 十五夜 (職員含め 40名参加)
20日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 18名参加)
25日	障がい者交流運動会 (職員含め 8名参加)
10月 7日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め 12名参加)
9日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め 12名参加)
11日	ともだちの会 十三夜 (職員含め 43名参加)
23日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 20名参加)
24日	穴山の里・わ〜く合同総合型スポーツ (外部講師を招いて職員含め 21名参加)
11月 13日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 13名参加)
15日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め 13名参加)
22日	日帰り旅行 (職員保護者様含め 51名参加)
12月 9日	ひとり立ち (職員含め 3名)
11日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め 22名参加)

20日	外出昼食会 (すたみな太郎にて 職員含め50名参加)
25日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め11名参加)
1月 10日	成人式 (職員含め39名参加)
10日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め21名参加)
17日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め13名参加)
22日	豚汁・おにぎりパーティー (職員含め18名参加)
2月 3日	ともだちの会 節分 (職員含め37名参加)
5日	ともだちの会 穴山郵便局周辺清掃 (職員含め12名参加)
7日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め12名参加)
10日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め11名参加)
14日	ともだちの会 バレンタインデー (職員含め41名参加)
3月 13日	ともだちの会 ホワイトデー (職員含め38名参加)
その他	
12月 17日	緑綬褒章受章 (国土交通省・皇居にて) ※地域貢献活動によるもの
	生活介護 総合型スポーツ活動 (2回/月)
	習字教室 (1回/月)

令和元年度 共同生活事業 事業報告

令和元年度は、地域生活を営むことを目標として、精神、経済、生活面で自立し個人の能力を生かしながら地域社会との接点を持ち、人として豊かな日常生活を送ることが出来るよう支援を行ってまいりました。

また、利用者支援のあり方として高齢化、重度化への対応を同時に取り組んできました。

現在、当事業所においても利用者全員が40代以上であり、60代以上の利用者が4割を超え高齢化・重度化が進んでおります。高齢障害者数の増加やサービス利用のニーズの多様化が見込まれることを踏まえ、障害福祉サービスから介護保険へ切り替わる際の現状と課題を検討してまいりました。その中で数名の利用者様においては介護保険サービスへの県内外の移行の準備や申請時期の検討なども重要な課題となりました。サービスの選択により利用者様の生活がより良い環境になるように検討した一年となりました。

1. 緊急時の対応 バックアップ施設・防災連絡体制（日中・夜間）

障害者支援施設穴山の里及び多機能型事業所わ〜く穴山の里を拠点とし、日中・夜間等の健康管理を含めた連携、支援体制の確保をしております。夜間支援体制については引き続き継続契約を結び、防災・防犯等の民間警備会社（セコム）と連携を図り安全体制の確保に努めております。また防災士の資格を持っている職員が定期的に防災訓練を行いました。また水害や地震等様々な災害リスクを想定して備えておく必要があるため、食料品・物品の備蓄等を行い内容の定期的な見直しや避難確保を行いました。

2. 入居者の生活の基本

利用者に対する生活支援・相談援助

個別支援計画に沿って健康や精神面での支援等個々に必要とされる支援を行いました。相談を受けた時には傾聴し相談に乗り、生活環境に携わる家族や関係者との連携により様々なケースの問題解決をその都度行いました。

食事の提供

食材配食サービスを利用し、専任栄養士が作る栄養バランスよい食事を提供しています。常に衛生上の安全には細やかな気を遣い、手・食器類の消毒等安全管理に努めました。

健康管理（バイタルチェック、服薬見守り）・入浴・排泄・食事の介助

毎朝起床後の体温測定、入浴前に体温・血圧の測定等により健康状態の把握を確認、また服薬の介助、薬の管理も行いました。体調不良時には、保護者との確認の上、入院・通院(受診、薬の受け取り)居室での静養等の支援、排泄記録を付け確認することで、身体のリズムを把握しながら対応を行っています。

金銭管理に関する支援

利用者自身が金銭管理することが困難な場合、依頼に基づき、事業所がその管理を代行しました。利用者の私物の購入や外食代などを支払いがあった場合には無駄使い等に気を配りながら、入出金についても管理しました。

余暇活動の支援・休日・奉仕・余暇

安定した運営、充実した支援に取り組み安全に生活できる環境作り、安心感のあるホームの生活づくりにも努めました。その中で衣類・生活用品の整理整頓を利用者と共に行いました。

地域奉仕活動として、JR穴山駅舎・穴山郵便局周辺の清掃活動をケアホーム利用者・職員・世話人の方々が中心となり活動をしております。

余暇活動としては、穴山の里太鼓クラブの活動に参加、現在各ホームから希望者7名の方々が毎週1回、ボランティアの先生のご指導の下、日々の上達に向けて頑張っております。練習の成果も含め、地域行事の場、自衛隊北富士駐屯地記念式典での披露・県内福祉施設慰問演奏など、積極的に活動範囲を広め発表する喜び、成果を感じることが出来るよう余暇活動の充実を図っております。

休日には、公共交通機関を利用し買い物等の外出計画を立てて行い、単独外出が困難な利用者様においては穴山の杜の売店を利用させていただき、できることを増やす支援を行っています。

日常生活に係る援助（入浴準備・洗濯・掃除・配膳）

基本的職員見守りのある中で、用途に合わせて行い、繰り返しの声掛け、助言等行ってきました。必要に応じ一緒に行う事で本人への意識を高めるよう支援しました。

3.保護者・関係各所との連携

個別懇談、電話相談等により利用者、保護者との信頼関係を築き、個人の処遇についてきめ細やかな支援を実施いたしました。

地域の交流関係、他事業所、保険、医療、福祉サービスとの連携を取り総合的なサービスに努めました。

4.業務報告

毎月第1木曜日に、世話人（12名）職員5名の参加による報告会を開催し、各ホームから利用者状況報告、業務収支状況報告・日中活動先からの状況報告・施設研修を行い業務運営・資質向上に努めております。

各ホームの会議・巡回等も定期的に行い、世話人との意見交換・情報交換し、相談・協力し合える風通しの良い環境作りに努めてまいりました。

来年度への課題として

利用者支援に関しては、継続して一人ひとり個別の生活を重視した支援を行っていきます。高齢化・重度化に伴い、障害者本人に合わせた支援を提供するために、過去の生活ぶりや生活環境等に関する情報を蓄積し支援者に共有されるような仕組みが重要と思います。

令和元年度 共同生活事業 主な出来事

月 日	出 来 事
4月 4日	入社式（職員含め51名参加）
4月 7日	陸上自衛隊北富士駐屯地 太鼓演奏（職員指導者含め10名参加）
4月14日	穴山町さくら祭り（職員含め32名参加）
4月30日	クラリネットコンサート & 食事会（わ〜く施設内 職員含め34名参加）
5月 2日	ギター弾き語りコンサート&手品・食事会（わ〜く施設内職員含め32名参加）
6月16日	フェアリーズカフェコンサート（南アルプス市 職員含め8名参加）
6月22日	葦崎市吹奏楽団定期演奏会（葦崎文化ホール 職員含め18名参加）
6月23日	余暇活動：カラオケ（カラオケハウスあおい 職員含め7名参加）
6月24日	葦崎市吹奏楽団定期演奏会（葦崎文化ホール 利用者16名）
7月 6日	海上自衛隊コンサート（桃源文化会館 職員指導者含め20名参加）
8月 4日	信和会夏祭り 太鼓演奏
8月12日	外食（くら寿司）・余暇活動（ケアホーム宿尻内 職員含め18名参加）
8月14日	次第窪夏祭り参加（職員含め12名参加）
8月10～15日	夏季帰省
8月25日	富士総合火力演習見学（東富士演習場 職員含め3名参加）
9月 1日	地域避難訓練・全GHCH 避難訓練（職員含め25名参加）
9月25日	デイサービスなごみ 太鼓演奏（職員含め6名参加）
9月27日	甲府 春光園慰問太鼓演奏（職員含め9名参加）
10月 1日	健康診断（職員）
10月 8日	フォルティナ(要害GH) 施設見学
10月16日	健康診断（職員・利用者）
10月26日	みのるの里まつり参加（高値福祉ふれあい広場 職員含め9名参加）
10月27日	葦崎協会発足45周年感謝祭参加（職員含め5名参加）
11月22日	わ〜く一日旅行
11月16・21日	インフルエンザ予防接種
11月23日	穴山の里文化祭（職員含め25名参加）
12月21日	クリスマス会
12月28～1月5日	冬季帰省
12月29日	日帰り外出（大東スターレーン・ゆず庵 職員含め17名参加）
1月22日	GH合同新年会（職員含め17名参加）
その他	外食 : 各ホーム：毎月1回
	太鼓の練習 : 毎週1回
	映画・カラオケ外出：不定期
	利用者外出 単独 : 月1回 付き添い：月1回

令和元年度

特別養護老人ホーム 穴山の杜事業報告

法人運営方針

真の福祉を追求していこう

事業運営方針

今までの暮らしの継続を！

ユニットケア 24時間シートを基本とし、利用者に住み慣れた家庭での暮らしを提供する。

事業目標と実績

5つのゼロ

オムツゼロ 排泄はトイレで

実績＝身体上の理由でベッド上でのオムツ交換が必要な入居者を除き

トイレでの排泄を意識して介護でき、その結果介護費用の削減につながられました。

機械浴ゼロ

家庭的なヒノキ風呂で温かみのある快適入浴を提供します

実績＝利用者にはヒノキ風呂の香りが利用者に大変好評であり利用者の満足度が得られております。

機械浴を進めるために身体機能維持に努めました。

拘束ゼロ

実績＝物理的な身体拘束は皆無です。言葉での拘束スピーチロックについても日々評価表で自己評価、他己評価で成果を上げています。

脱水ゼロ

実績＝利用者の嗜好に合わせた飲み物の提供等により個々にあった水分量が提供できました。

下剤ゼロ

実績＝水分摂取、規則的な生活、機能訓練等を行うことで下剤を使わない生活の実現を目指し入居前には下剤服用されていた入居者もセンナ茶（漢方薬）の提供で排便コントロールができました。

委員会活動

全員参加の委員会活動を通して運営目標の達成、委員会目標の達成を図りました。

◎介護力向上委員会

実績＝8回の委員会を通してユニットケア、オムツゼロ、認知症ケア等介護技術向上に関する活動を展開し特浴体験研修を7月に行い19名の参加を得て実施しました。

委員会の活動成果として山梨県老協研究総会で3チームが発表を行い高評価を得ました。

◎安全衛生委員会

実績＝施設内の感染症の予防、対策 発生時の対応訓練

- ・新採用職員への感染症についての研修・・・9月実施
- ・食中毒についての研修・・・6月実施

◎介護事故、拘束、虐待防止委員会

実績＝入居者平均年齢89歳 介護度平均4など高齢化による身体機能の低下による転倒事故が多くなっています。添付資料参照

身体拘束、虐待についてははゼロを継続中

介護事故、拘束、虐待に関する職員研修・・・8月、11月開催

◎接遇、レク、環境整備委員会

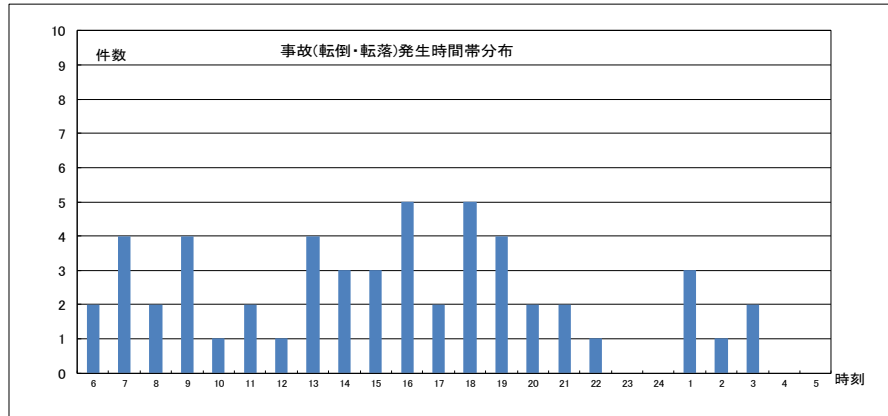
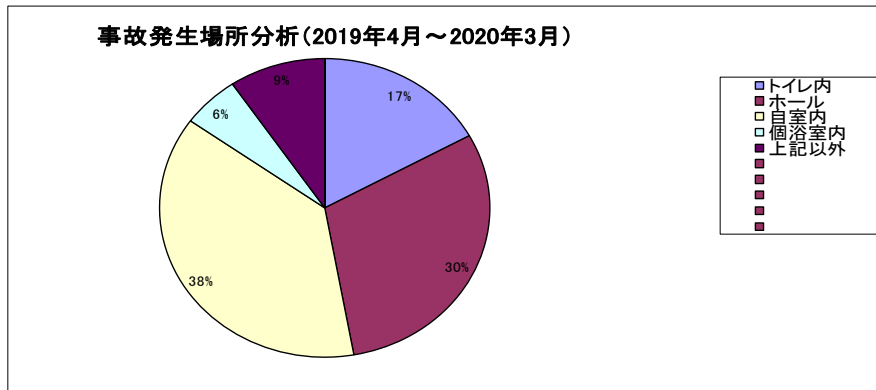
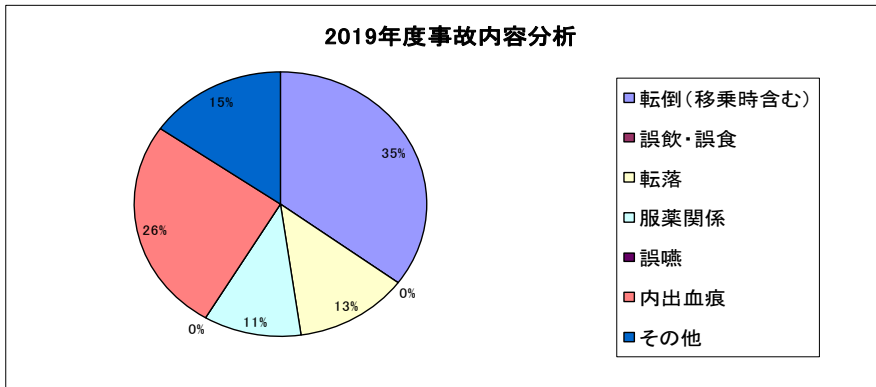
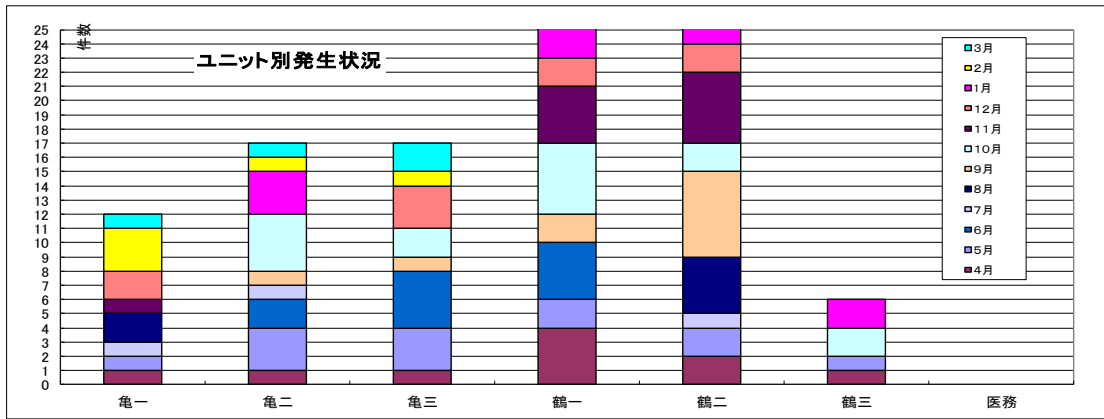
実績＝13回の委員会活動を開催入居者、家族、職員間の礼儀作法（特に挨拶運動）を推進しました。申し送り時には法人基本理念を斉唱し意識を高めています。又委員会で考案した目標についても斉唱しています。生活のマンネリ化防止のレク活動推として利用者どで喫茶コーナーに集まりケーキとコーヒで気分転換を図っています。

職員研修

- ・9人の職員が外部機関による喀痰吸引研修を受講し資格検定に合格しました。
- ・中堅職員に対する研修の実施・・・外部講師により4人の若手職員が1年を通した研修を行い職業意識の向上、社会人としての考え等のレベルアップを図りました。
- ・委員会活動での委員会目標に沿った研修を10回（175名参加）実施

防災（地震）、防火対策の徹底

- ・災害時の緊急食、飲料水、生活用水を確保し緊急時に備えました。
- ・非常時の停電に備え自家発電機を山梨県の補助金を得て設置し電時での電気系これにより停電の支障は無くなりました。



令和元年度 穴山の杜 主な出来事

	行事・出来事
4月1日	辞令交付式
16日	音楽会（アンサンブルリベカによるコーラス）
22日	お楽しみ会（初花会、松花会による日本舞踊）
24日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
5月8日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
21日	菰崎民謡会 慰問
6月12日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
23日	環境整備（利用者家族対象 32家族44名参加）
7月10日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
25日	消火訓練・避難訓練
8月4日	地域ふれあい夏まつり
8日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
9月11日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
10月1日	秋の健康診断（利用者・職員対象）
9日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
30日	フルート・オカリナ演奏会
11月10日	環境整備（利用者家族対象 30家族41名）
18日	お楽しみ会（初花会、松花会による日本舞踊・マジック）
20日	お話し会（ロバとうさぎの会傾聴ボランティア）
2月9日	山梨県老施協研究総会成果発表(3組6名参加)
3月25日	避難訓練

令和元年度

穴山の杜 短期入所生活介護事業所 事業報告

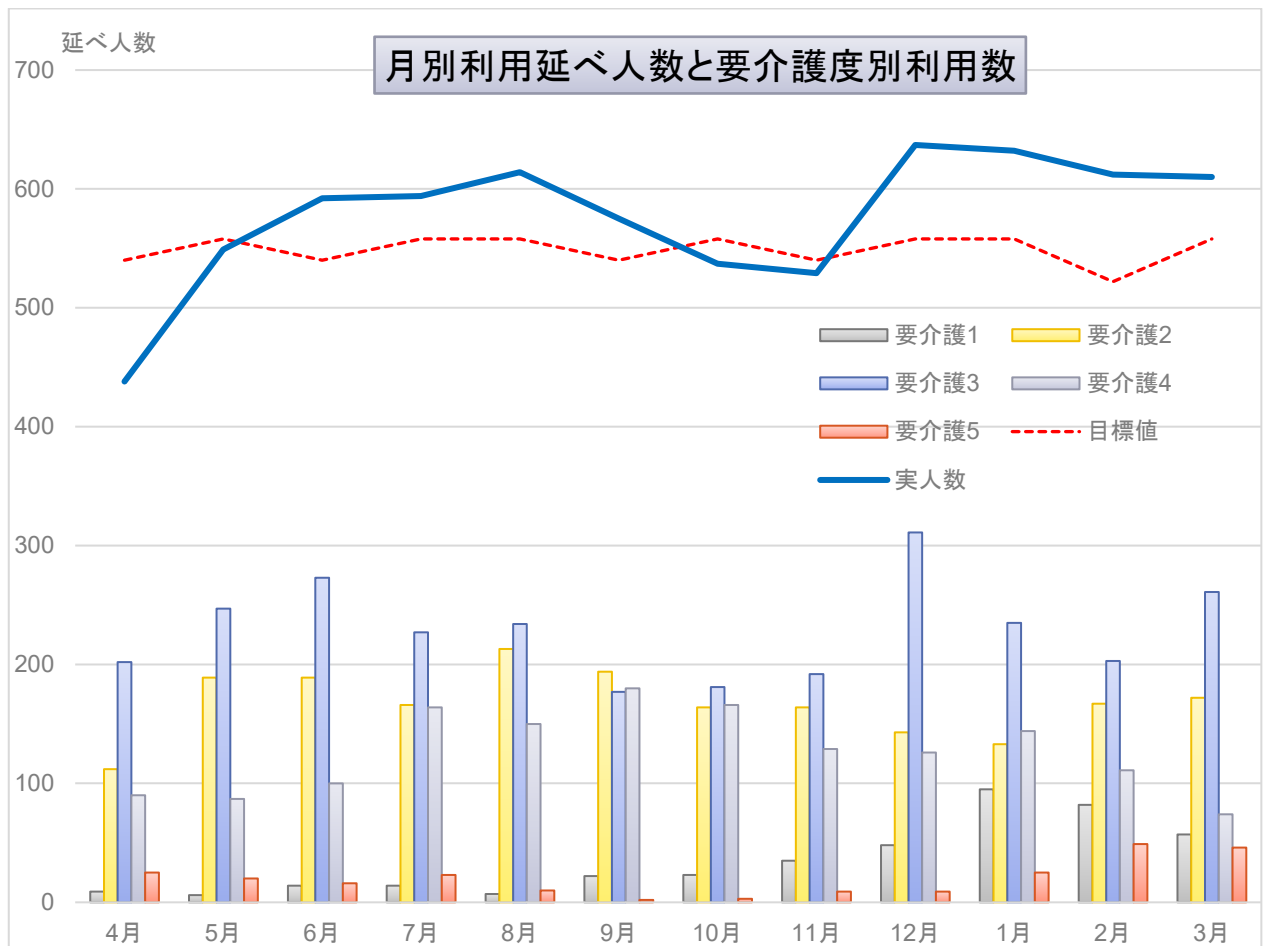
1 はじめに

これまでは利用を増やすことに重点を置いてきましたが、今年度は増えた利用をどのように持続させていくか、安定に繋げていくかに力を注いできました。

2 今年度の実績

① 安定した利用の確保（地域ニーズの情報収集と地域との連携）

今年度は一昨年度実績から年間通して90%の利用率を目指して行ってきました。年度当初と秋口は冬や夏場の長期利用者の終了から目標値を下回る利用でしたが、それ以外はほぼ目標値をクリアすることができ、年間平均利用率は94.5%と数値的には上回ることができました（下記グラフ参照）。



ここ4年間、利用は高い数値を示すことができ、いかに地域に需要があるのか理解できたとともに、高齢者人口が多い中、特養も待ちの状況を考えてみると、宿泊できる施設は必要であることも直接肌で感じることができました。また高齢化が進む障がい者の受け入れも定期的にでき、介護保険への移行

も行うことができました。今後さまざまな問題が生じる可能性はありますが、第一歩としては施設として役目を果たせたのではないかと思います。

② 福祉サービスの質の向上（職員資質の向上）

昨年度に引き続き、目標管理シートに関しては全員が取り組むことができました。ただ内容については個々にばらつきが見られ、今後指導していく必要があることを感じています。

また昨年度実施することができなかった外部への研修については、全員が最低1回は参加することができました。これについても内容が期待していたものと違ったりしたことはありましたが、まずは施設外に出て外部の方の話を聴いてみるという1番低い目標は達成できたのではないかと思います。

3 反省および今後の課題

居宅ケアマネージャーとの関係づくりも継続的にできており、ご家族や利用者との関係も上手くできていることで、利用も高い数値で安定し、結果、事業収入自体も浮き沈みなく、ほぼ横ばいよりも右肩上がりの実績に繋げることができました。

『穴山の杜 短期』の独自の色、利用者自身の個を大切にしていけるケアもできつつあり、そのことが実績にも結び付いて来ているのではないかと思います。

全体的には職員はまだまだ専門的な知識が不足しており、施設自体も力が付いていませんが、実際の日々のケアの中から、また外部の研修や法人内の研修に参加することから、常に学ぶ姿勢を持ち、今年度よりもさらに向上できるように努めてまいりたいと思います。

穴山の杜短期入所生活介護事業所

令和元年度 主な出来事

日 付	内 容
4月 1日	開所記念
23日	第三者委員来所
26日	おやつレクリエーション（鶯饅頭作り）
5月25日	感染症対策勉強会
27日	トランスファーの基礎知識研修
28日	おやつレクリエーション（パフェ作り）
6月26日	おやつレクリエーション（じゃが芋餅作り）
27日	口腔の健康管理と嚥下障害のケア研修
7月 4日	オカリナ演奏慰問
9日	韭崎市介護相談員来所
23日	第三者委員来所
30日	おやつレクリエーション（あんみつ作り）
8月21日	おやつレクリエーション（ワッフル作り）
9月 4日	防災訓練
13日	山梨県監査
18日	おやつレクリエーション（ウサギ饅頭作り）
10月 1日	職員健康診断
25日	レクリエーション技術研修
29日	第三者委員来所
30日	おやつレクリエーション（どら焼き作り）
11月11日	認知症高齢者の理解研修（12月10日）
12月 9日	介護ロボット活用講座
12月24日	クリスマス会
1月 9日	レクリエーション（繭玉作り）
2月 5日	言語療法士から学ぶ自立支援研修
18日	おやつレクリエーション（柚子饅頭作り）
25日	第三者委員来所
3月12日	おやつレクリエーション（クッキー作り）

令和元年度

相談支援事業所 さくら 事業報告

1 令和元年度の行政動向

今年度は「元号」の切り替えに伴い、行政でも様々な申請書類の表記に誤差が生ずるところもあり、言葉に敏感に反応する利用者は不安となることもありました。

「計画相談」の事業については殆ど変わりなく、市内の相談員の人数変動なども見られておりません。

しかしそれぞれの事業所にて一人の相談員の抱える件数が増えてきているため、事業所によっては「障がい児・者」の対象枠から「障がい児」の枠を休止扱いするところも出てきております。

2 「さくら」の実績（事業目標3点における報告）

① 利用者の将来あるべき姿を関係者間で共有…について

最初から入るケースについては、利用する事業所と方向性を合わせるために「アセスメント」などの資料を提供し、相談員の立場で抑えた情報は極力開示することに重点を置き、不安のないスタートが切れるようにしています。

また既に事業所利用をされている方については、事業所にて作成した「個別支援計画」との連動に心がけ、利用者の混乱を防ぐことを重視しました。

しかし利用者や保護者の中には、「現在の姿」と「将来思い描いている姿」とに大きな差があり、その差を縮めることがまず必要な場合もあります。そのような時は面談や書面作成の折に言葉の選び方一つで見当違いになることもあるので、注視しながら面談・作成することが必要でした。

② 事務処理の時短を目指す…について

今年度当初に「ノートパソコン」を導入して頂きました。そのため事務処理のためにわざわざ事業所に戻る必要も無く、移動時間を利用しながらスムーズに書面に落とせるようになり、事務時間の効率化にもなりました。さらに評価会議や支援の現場を確認することで発生する加算に加え、障がい特性に応じた支援体制加算の研修を受講し、少額ですが1件につき35単位（350円）の上乗せが出来るようになりました。その結果、昨年を上回る収入に結びつけることができました。

③ 他職種との連携の可視化…について

今年度は法人内の「障がい福祉サービス事業所」を利用される方の中で加齢に伴い、「介護保険」へと移行するケースがありました。

「介護保険」では全てに後見人となる人が必要です。後見人となる兄弟姉妹がいる場合はその方を頼りに動けますが、身内が所在不明等の場合には後見人となって動く人を探すことから必要となること。さらに「成年後見制度」の利用については多くの手続きを要することも学びました。

これからは「65歳になった時点で『介護保険』に切り替える」のではなく、「必要な状態になった際に『介護保険』を申請する」方向で進めることが一番スムーズに行くことと考えます。

3 おわりに

令和2年度が始まりましたが、「新型コロナウイルス」の流行に伴い、いつものような訪問もスムーズに行なえず、新規利用や新サービスの追加利用に向けたい方も受け入れ側が制限をかけていることで、利用に向けて前進しない状態にあります。このような事態は初めてなので、行政と連携しながら状況に応じて臨機応変に進めていくこととします。

以上

※業開始当初から利用者 累計：220名

令和2年3月末現在 利用者数 132名

【内訳】

サービス等利用計画作成数

(新規) 9件

(更新) 74件

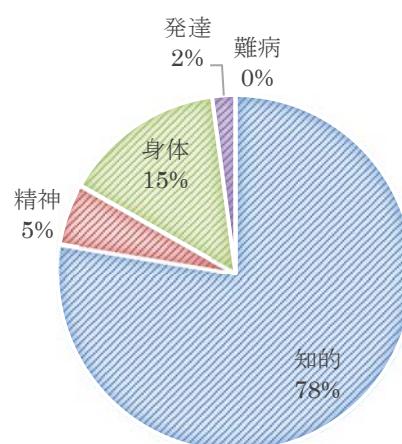
合計 83件

モニタリング作成数

(単純作成) 259件

(更新時追加資料) 74件

合計 333件



担当者会議録作成数 (加算) 179件

現状確認書類作成数 (加算) 468件

知的 精神 身体 発達 難病